

総合計画実施計画策定及び行政評価シート

対象年度	平成31年度						
事務事業名	青少年教育推進事業（スクールサポート推進事業）					予算事業名	青少年教育推進事業費
予 算 科 目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分
			10	05	03	2001	経常経費
総合計画体系	4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文)					事業の区分	主要事業
	4-1生きる力を育む教育環境づくり(学校教育)						生涯学習課
	①教育内容の充実					担当課係等	生涯学習係
事業期間	継続（平成28年度～平成32年度）						
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】				【事業開始のきっかけや他市の状況など】			
<ul style="list-style-type: none"> 小中学生の学力向上 小中学生の基本的な生活習慣の確保 不登校児童生徒への適応指導 中学校部活動の充実 				<ul style="list-style-type: none"> 小山市との友好都市盟約締結によって、小山市との交流活動が教育面でも活発になっている。そのような状況の中で、小山市内の大学との交流により、将来教職を目指す学生の活用は、小中学校の教育活動を活性化している。 			
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】				【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】			
<ul style="list-style-type: none"> 小中学生への学習支援 小学生への放課後学習サポート 「フレンドゆうの木」での学習支援や活動補助 外国人への日本語指導や生活適応指導 				市内全小中学生 【事業をとりまく環境の変化】 小中学生の学力向上や不登校やいじめ問題に関する生活指導は、茨城県だけでなく全国的な課題であり、各自治体での対応が見直されているところである。そのような状況の中で、大学生等によるサポート活動は、地元の教育資源の発掘と有効活用の面でも、大変意義あるものとする。			
【平成31年度 事業内容】		【平成32年度 事業内容】			【平成33年度 事業内容】		
<ul style="list-style-type: none"> 小中学生への学習支援 小学生への放課後学習サポート 「フレンドゆうの木」での学習支援や活動補助 外国人への日本語指導や生活適応指導 		<ul style="list-style-type: none"> 小中学生への学習支援 小学生への放課後学習サポート 「フレンドゆうの木」での学習支援や活動補助 外国人への日本語指導や生活適応指導 			<ul style="list-style-type: none"> 小中学生への学習支援 小学生への放課後学習サポート 「フレンドゆうの木」での学習支援や活動補助 外国人への日本語指導や生活適応指導 		

■事業費

		H29年度	H30年度			
財源内訳	国庫支出金	0	0			
	県支出金	0	0			
	地方債	0	0			
	その他	0	0			
	一般財源	340	892			
歳入計（千円）		340	892			
歳出内訳	節（番号＋名称）	金額（千円）	金額（千円）			
	08 報償費	321	864			
	12 役員費	19	28			
歳出計（千円）（A）		340	892			
伸び率（％）			162.35			
備考	総合計画113ページ 予算書170ページ					

平成29年度行政評価シート

■指標

種類	指標名	単位		H29年度	H30年度	H31年度
活動 指標	大学生サポーター数	人	目標	30.00	42.00	42.00
			実績	30.00	0.00	0.00
	活動延べ日数	日	目標	350.00	400.00	400.00
			実績	380.00	0.00	0.00
成果 指標	支援学校数	校	目標	12.00	12.00	12.00
			実績	7.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	児童、生徒を多くの目で見ること、よりきめ細やかな支援ができる。サポーターも教員志望の学生であるため、意識が高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	各学校からスクールサポーターの有効性を聞くことができ、かつ、スクールサポーター側からも有意義であることの報告がある。
	手段の妥当性	A 妥当である	学校の担当者とのやりとり、学生と担当課とのやりとりの時間のずれが生まれてしまう。しかし、丁寧に行う上では現状維持が妥当と思われる。
効率性	コストの効率性・人員効率	A 改善の余地はない	学生への交通費（謝金）の面で様々な意見があるが、ボランティアの要素が強いため、現状維持で良い。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	駅からの距離などもあり、学校によりサポーターの数に差がある。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	学校側からは、サポート人数や回数が増えることへの要望もあるため、本事業が学校側にとって有効であると言える。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	毎年少しずつサポート校を広げていく中で、サポーターの人数も増えている。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
各学校から好評であり、サポーターの学生からも勉強になるとの意見をもらっている。結城市は、学生へのレンタルサイクルや給食指導の提供などがあるが、各校担当の教諭と事務局、事務局と学生との円滑な情報交換により、より効果的に行えるようにする。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
サポート対象校を市内全校に広げたので、今後、サポーターの人数も増やししながら、各校の人数のバランスを図りたい。			

■方向性

<p>1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））</p> <p><input type="checkbox"/> 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） <input checked="" type="checkbox"/> 改善改革しながら継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続（改善・改革なし） <input type="checkbox"/> 統合・新規事業への展開</p> <p><input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 予定どおりの要求 <input type="checkbox"/> 一部改善の上要求 <input type="checkbox"/> 今回は見送り <input type="checkbox"/> その他の処置</p> <p>改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画）</p> <p>将来教職を目指す学生の活用は学生にとっても有効であり、小中学校の教育活動を活性化するものであり大変有効と考える。</p>
<p>2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））</p> <p><input type="checkbox"/> 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） <input type="checkbox"/> 改善改革しながら継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続（改善・改革なし） <input type="checkbox"/> 統合・新規事業への展開</p> <p><input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 予定どおりの要求 <input type="checkbox"/> 一部改善の上要求 <input type="checkbox"/> 今回は見送り <input type="checkbox"/> その他の処置</p> <p>企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入）</p> <p>上記評価のとおり。</p>